1 NEWS 1年間の無火災を祈願
平成23年村消防団出初め式

平成二十三年鮫川村消防団出初め式は一月四日、村公民館で行われ、一年間の無火災を祈願しました。

式に先立ち、消防車両による村内分列行進で火災予防を呼びかけたあと、通常点検と水勢披露が行われました。

式には、幹部団員や来賓など約百二十人が出席。無火災祈願の黙とう、村長あいさつ、団長式辞に続き、無火災分団（建物火災が三年以上発生していない分団）と優良団員に表彰状が贈られました。

表彰を受けた分団・団員は次のとおりです。

▼**無火災分団表彰**…第二分団（赤坂西野・二十年三か月）第三分団（西山・十八年十か月）第四分団（渡瀬・十六年四か月）第六分団（富田・八年九か月）第一分団（赤坂中野・七年〇か月）第五分団（赤坂東野石井草・四年三か月）

▼**優良団員表彰**…岡部満（第一分団）鈴木良男（第二分団）鈴木博勝（同）関根裕治（第三分団）小松宏幸（第四分団）須藤重晴（第五分団）中川西正（同）藤田孝之（第七分団）

通常点検を受ける幹部団員

2 NEWS 梅を使った特産品開発を目指して
富田地区で特産品開発講演会開催

富田梅千本の里づくりを行っている富田地区夢づくり協議会特産品開発事業部の「特産品開発講演会」は十二月二十五日、富田区集落センターで開かれました。

講演会には、協議会の会員など約二十人が出席。東京農業大学短期大学部醸造学科の穂坂賢教授を講師に「梅の実、しその葉の加工品について」と題して、梅の品種や梅の用途に合わせた加工の仕方、シソの葉の加工品について事例を紹介しながら講演が行われました。出席した会員らは熱心に耳を傾けていました。

梅の実とシソの加工品について学んだ講演会

3 NEWS 第30回全国中学生人権作文コンテスト
白河人権擁護委員協議会奨励賞を2人が受賞

第三十回全国中学生人権作文コンテスト福島県大会の表彰状伝達式は十二月二十一日、鮫川中学校校長室で行われました。

コンテストは毎年行われているもので、鮫川中学校から七十六点の応募がありました。

その中から目黒翔さん（三年）と、高久幸恵さん（二年）の二作品が奨励賞を受賞。また、毎年多くの作品を出品している鮫川中学校（高橋顕校長）に学校感謝状が贈られました。

式では、鈴木正美白河人権擁護委員協議会長から受賞者に賞状と記念品が手渡されました。

受賞した（前列左から）目黒さん、高橋校長、高久さんと鈴木会長、（後列左から）村人権擁護委員の水野きよ子さん、津田彰夫さん

4 NEWS 食と農の大切さを学ぶ
東京農業大学・食農体験実習

東京農業大学の食農体験は十二月二十五日、二十六日の二日間、村内で行われました。

実習には同大学の学生三十人が参加。初日は、村保健センターと村農産物加工・直売所「手・まめ・館」で味噌の加工や豆腐、納豆、おからふりかけ作りを体験しました。二日目は、葉貫地内の炭窯で炭出し作業や落ち葉かきを体験しました。学生らは実習を通して生産から収穫、加工を実践し、食と農の大切さを学びました。

栽培した大豆を加工する学生ら

5 NEWS きれいに飾れたよ。
こどもセンターで小正月の「だんごさし」

小正月の伝統行事「だんごさし」は一月二十一日、こどもセンターで行われました。

だんごさしは、渡瀬長寿会（大森茂会長）の会員六人が協力。子どもたちは杵と臼を使った昔ながらの餅つきを楽しんだあと、小さく切り分けられた餅を水木にきれいに飾りつけ、ついた餅を味わい小正月を祝いました。

また、お年寄りから昔の歌や遊びを教えてもらい楽しいひとときを過ごしました。

きれいに餅を飾り付ける子どもたち

6 NEWS 伝統行事で親睦を深める
真坂地区で「とり小屋」実施

真坂地区の二十七世帯が参加する真坂三矢会（矢吹一男会長）主催の正月の伝統行事「とり小屋」は一月九日、真坂農村公園で行われました。

とり小屋は真坂地区で毎年行われているもので、笹竹や茅などで作った小屋に神棚を設け、正月飾りや古いお札などを供養。一年の無病息災や家内安全などを祈願しました。参加者は、振舞われたとん汁を味わいながら親睦を深めていました。

正月飾りなどを供養した「とり小屋」

7 NEWS 文化財を火災から守れ！
世々麦薬師堂（青生野区）で火災防御訓練

文化財防火デー火災防御訓練は一月二十三日、渡瀬字青生野地内の世々麦薬師堂付近で行われました。

棚倉消防署鮫川分署や村消防団員など関係者約五十人が参加。

訓練は「薬師堂付近から出火した」との想定で行われ、通報や中継送水訓練などの消火訓練が繰り広げられました。

参加者らは万が一に備えて真剣な表情で訓練に臨んでいました。

真剣に訓練に取り組む消防団員